

評価調書(県総合評価調書)

【評価の基準】

- (1)多様化・高度化する県民ニーズや社会経済情勢等の変化への的確な対応
- (2)厳しい財政状況を踏まえた簡素で効率的な事業展開
- (3)県の財政的、人的関与の適正化による主体的・機動的な団体運営
- (4)役職員体制の適正化による自律的かつ効率的な組織運営
- (5)積極的な情報提供の推進による団体に対する県民の理解と信頼の促進

1. 評価結果(個別観点)

観 点	評 価 内 容	評 価
団体のあり方	<p>当該財団は、県内の自然系博物館施設及び自然公園施設等の管理運営を通じ、自然公園の保護と利用の増進に資するとともに、地球環境保全、自然環境の保護に関する普及啓発活動を展開し、広く県民に対して環境の保全の重要性を訴え、もって島根県の環境の保全及び地域振興に寄与することを目的としている。また、地球温暖化防止活動の推進、環境保全や環境教育の担い手として島根県における中核的な役割を果たしている。今後もこの財団の果たす役割と期待は大きい。</p>	A
組織運営	<p>公益財団法人への移行以降、理事会及び評議員会が適切に開催されている。また、三瓶自然館の運営を検討するために三瓶自然館運営委員会を開催し、教育関係者や地元地域関係者等との意見交換が行われ、適切なアドバイスや意見も挙げられている。</p> <p>人件費抑制を進めながらも、業務効率化やコスト縮減により、サービス向上のための人員配置や職員研修を行い、職員の資質の向上に努めてきたが、増加する業務や多様化するニーズへの対応が難しくなっており、年齢構成の偏りや処遇の財源など将来的な不安が増大している。このため、就業規程、給与規程等の見直しを進めている。</p>	A
事業実績	<p>三瓶自然館及び附属施設の管理運営を適切に行うとともに、企画展や各種観察会・イベント等の開催、あるいは新聞等での寄稿・掲載を通じて、環境教育や自然保護・自然環境思想の普及啓発に貢献し、各施設の利用増進を図っている。指定管理制度導入後、創意工夫を凝らした企画展や、さまざまなイベント等により誘客を図り、引き続き第三期指定管理者に指定された。また調査部門では、調査業務の受託のほか、各学芸員がそれぞれのテーマを持って独自に研究活動を行っており、自然環境分野における調査研究機関として活動の幅を広げている。</p> <p>環境保全活動支援事業では、県民の環境に対する関心が益々高まる中で、環境問題の啓発や環境保全活動に対する支援を適切に実施している。</p> <p>北の原キャンプ場は大田市から指定管理者に指定され、施設の老朽化が進むなか、適切に管理運営を行い、過去最高レベルの利用収入を3年連続維持している。</p>	A
財務内容	<p>当該財団の性格上、財源のほとんどを指定管理料収入に頼っているが、収入確保やコスト削減に努めており、当面安定した財務状況が見込まれる。</p>	A
	<p>県の財政的関与について 現在、県の財政関与は基本財産の出捐のほか、指定管理料、各調査業務の委託料、環境事業系の補助金と多岐にわたっている。</p>	

評価の目安 A:良好である B:ほぼ良好である C:やや課題がある D:課題が多い

2. 総合評価

	課題の内容等	今後の方向性	評価コメント
団体の経営評価報告書における総合評価について	三瓶自然館の自然系博物館としての博物館機能の充実及び魅力の向上(常設展示等の更新)	館の将来像を含めて、長期的な方針を立てて検討する必要がある。展示についても、更新が図られるよう提案していく。	常設展示の情報の古さ、施設や設備・機器の老朽化や展示室の使いにくさなど、課題は共通の認識。厳しい財政状況の中、三瓶自然館の再整備が図られるよう、国立公園満喫プロジェクトなどの事業を活用し、有識者や地元の意見も聞きながら、ともに検討を進めていきたい。
	利用や状況に合わせた施設の改修	展示更新にあわせた整備を期待。引き続き、情報提供や提案を行う。	
	設備類の修繕・更新の遅れ	関係情報を提供し、適切な修繕、更新がされるよう訴えていく。施設の根幹に関わる設備については緊急の対応が取れる仕組みづくりを望む。	大規模修繕の執行は県全体の優先度判定により実施項目が決定されている。必要な修繕が適切かつ速やかに実施できるよう状況報告等の協力を願いたい。工程調整については、関係部署と相談しながら進めていきたい。
	三瓶小豆原埋没林公園の再整備	展示拡充の必要性もあり、ガイダンス施設の整備、職員体制の充実を働きかけていく。	施設の無休対応や展示解説など、運営努力は評価できる。展示、解説方法については、三瓶自然館の再整備とともに検討を進めていきたい。
	地域連携の在り方	地域連携参画の必要性や効果、負担を判断しながら、地域の活性化が図られるよう、三瓶地域の再生・発展に寄与していく。	地元地域や教育機関との連携は高く評価でき、三瓶地域振興の中心的役割を果たしている。引き続き、積極的に三瓶地域の振興、観光振興に寄与してもらいたい。
	組織体制の強化、雇用・人材育成のサイクルの確立	専門性・特殊性を持つ法人事業を次世代にどう繋いでいくか、問題を認識してもらう必要がある。また、将来を見据えた人事計画を策定し、組織体制の確立、必要な人材及び財源の確保を目指す。	業務効率化やコスト縮減で財源を確保し、職員の正規雇用化による人材の確保や、独自の給与制度、勤務評価による昇給システム導入などにより人件費抑制を進めてきたが、多様化するニーズに対応が難しくなっている。また、職員の年齢構成の偏りなどにより将来の人材喪失の危惧がある。引き続き、就業規程、給与規程等の見直し・検証を進め、組織体制の強化や充実を図っていただきたい。
	給与待遇の向上、見合う人件費財源の確保	給与待遇の改善が急務であり、職制や給与見直しをH30.4月に実施。財源不足解決のため委託元に見直しを求めていく。	
	2020年度までの行政事務対応について	2020年に向け「国立公園満喫プロジェクト」や「第71回全国植樹祭」が計画され、積極的に協力・関与して行く。早急に、整備スケジュール等を示してほしい。また、人員体制の見直しが図られるよう働きかけたい。	両事業を進めて行く上で、三瓶自然館の協力は必須である。関係機関や三瓶自然館、施工業者等と連絡を密に行い、運営に大きな影響が無いよう調整して行きたい。人員体制については、引き続き、就業規程、給与規程等の見直し・検証を進め、組織体制の強化や充実を図っていただきたい。

総合コメント

当該財団の前身は、三瓶自然館の管理運営を目的に設立された団体であるが、平成17年度から指定管理者制度に移行し、県との財政的な関係が整理され、その後は独自の経営努力により経営の安定化が求められることになった。創意工夫を凝らした企画展などの開催により誘客を図るなど、これまでの財団の努力は評価でき、平成27年度から引き続き第3期指定管理者に指定された。なお、大田市からも、北の原キャンプ場の指定管理者として指定され、適切な管理運営を行っている。

近年環境に対する関心が益々高まる中で、今後も島根県全般の自然環境に関する調査研究と生物多様性の保全、地球環境の保全を担う団体として、学芸員の知識やこれまで育ててきた地域との連携を生かし、県内の各団体や県民との連携を深め、全県的な活動がさらに広がることを期待する。また、三瓶地域の中核施設として、地域と連携したインバウンド対応やさらなる魅力向上による観光振興への寄与にも期待したい。